

めあて おはなしを よんで、しつもんにあつた ことばを さがして かこう。

一 つぎの おはなしを よんで もんだいに こたえましょう。

くまさんが、お手がみを出しに いきます。

「いい お天気で、いい 気もち。」

すると、むこうから きつねさんが あるいて くるんです。

スタタ スタタ スタタ

くまさんは、きつねさんを見ました。きつねさんも、

くまさんを見ました。

でも、ふたりは ともだちじゃ ないから、

「……。」

「……。」

だまって とおりすぎました。

こうやま よしこ「はじめは『やー』より(平成二十七年 度 学校図書)

1 くまさんは、なにを しようとして そとに 出かけましたか。

「を出しに行く。」に つながるように ひらがな四もじで かきましよう。


を出しに行く。

※つぎの ページにも もんだいが あります。

2 ———— せんの「スタタ スタタ スタタ」は、音を あらわすこ  
とばです。だれが なにを している 音なのか、かきましよう。

3 くまさんと きつねさんが 出あったとき、どうして ふたりは  
だまって とおりすぎたのですか。りゆうを、「ではないから。」に  
つながるように ひらがな よん 四もじで かきましよう。


ではないから。

めあて 学しゆうした かん字を よんだり かいいたり できるように しよう。

二 つぎの ———— せんの かん字の よみかた  
を、ひらがなで ていねいに かきましよう。

1 上|を むく。

2 カ|を こめる。

3 空|を ながめる。

4 かぜで 三|日やすむ。

5 お金|を はらう。

三 つぎの ———— せんの カタカナを、かん  
字で ていねいに かきましよう。

1 ヒト|を さがす。

2 コ|どもが あそぶ。

3 ミズ|を のむ。

4 メ|ぐすりを さす。

5 ア|メが ふる。

めあて 時間の順序や、事柄の順序に注意して読もう。

一 次の文章を読んで、あとの問題に答えましょう。

冬が来ました。

シマリスは、すあなでどんぐりの上に冬みんしています。あさくうめたどんぐりは、春に雪がとけてから食べるのです。

エゾアカネズミは、雪の下のすあなで、どんぐりを食べながら春をまっています。

春が来ました。ミズナラの木には、花がさきました。

あちらこちらにちらばったどんぐりは、それぞれどうなったか見てみましょう。

地面におちたままのどんぐりは、そのままかわいてだめになっていました。ねが地面にささらなかったのです。リスやネズミのすあなふかくうめられたどんぐりは、めが土の上まで出られず、かれています。ところが、地面にあさくうめられたどんぐりの中で、食べわすれたものからは、めが出ていました。

明るい場しよにそだったミズナラは、十年くらいでりっぱなわか木になります。ミズナラは、どんぐりがめを出してから、およそ四百年くらい生きていきます。その間、およそ二年に一ど、どんぐりをたくさんつけます。

こうや すすむ「どんぐり」より（平成二十七年 度 学校図書）

※つぎのページに問題があります。

1 シマリスは、どのように冬<sup>とう</sup>みますか。次<sup>つぎ</sup>の<sup>ア</sup>から<sup>ウ</sup>までの中から一つえらんで、そのきごうを書きましよう。

<sup>ア</sup> あさくうめたどんぐりを食べながら冬<sup>とう</sup>みる。

<sup>イ</sup> 雪の下<sup>した</sup>のすあなで、どんぐりを食べながら春<sup>はる</sup>をまつ。

<sup>ウ</sup> すあなでどんぐりの上<sup>うへ</sup>に冬<sup>とう</sup>みる。

2 地面<sup>じめん</sup>におちたままのどんぐりは、なぜ、そのままかわいてだめになったのでしょうか。文章<sup>しょうご</sup>中の言<sup>こと</sup>ばをつかって書きましよう。

めあて 学習<sup>がくしゅう</sup>した漢字<sup>かんじ</sup>を読<sup>よ</sup>んだり書<sup>か</sup>いたりできるよ用にしよう。

二 次<sup>つぎ</sup>の——線部<sup>せんぶ</sup>の漢字<sup>かんじ</sup>の正しい読<sup>よ</sup>み方を、ひらがなでいねいに書<sup>か</sup>きましよう。

1 馬<sup>うま</sup>が歩<sup>あ</sup>く。

2 車<sup>くるま</sup>が走<sup>は</sup>る。

3 顔<sup>かほ</sup>を上げ<sup>あ</sup>る。

4 汽<sup>き</sup>車<sup>しや</sup>にの<sup>の</sup>る。

5 魚<sup>いし</sup>を食<sup>く</sup>べ<sup>る</sup>。

三 次<sup>つぎ</sup>の——線部<sup>せんぶ</sup>のカタカナを、漢字<sup>かんじ</sup>でいねいに書<sup>か</sup>きましよう。

1 本<sup>ほん</sup>をカ<sup>か</sup>う。

2 シツナイで<sup>で</sup>すご<sup>ご</sup>す。

3 鳥<sup>とり</sup>がナ<sup>な</sup>く。

4 コウサクがと<sup>と</sup>く<sup>く</sup>い。

5 家<sup>いえ</sup>にカ<sup>か</sup>エ<sup>え</sup>る。

めあて 中心となる語や文に注意して読もう。

一 次の文章を読んで、あとの問題に答えましょう。

わたしたちは、次に、クロソラスズメダイ※1がせわをしなくなると、イトグサがどうなるのかをたしかめることにしました。小さなこいを用意してイトグサの「農場」の一部をおおい、ようすをかんさつすることにしたのです。少しかわいそうですが、クロソラスズメダイをイトグサに近づけないようにして、せわをしているところとしていないところとのちがいを見ようと考えたのです。

七日たちました。「農場」に行ってみると、かこいでおおわれていない部分のようすはかわっていませんが、おおわれていた部分は全くちがうようすになっています。イトグサは、ところどころにのこっているだけで、ほかの※3もや海藻がびっしりと生えているのです。

イトグサの「農場」はあさい海にあります。太陽の光がたっぷりどくので、もとほかの※3もや海藻も育ちやすいのです。そこで、いつもはクロソラスズメダイによって取りのぞかれているもや海藻が、ふえる力の弱いイトグサを負かしてしまったのでしょう。イトグサにとっても、クロソラスズメダイの「草取り」のような  がひつようなのだということがよくわかりました。

※1 「クロソラスズメダイ」：サンゴのある海のアさいところにすむタイ(魚)の仲間。なかま

※2 「イトグサ」：もとの仲間。

※3 「も」：海や川、湖にある植物。しよくぶつ 海藻や水草の仲間。かいそう みずくさ

新田 末広 『農業』を「する魚」より(平成二十七年度 三省堂)

1  の中にあてはまる言葉を、文章中からさがし、二字で書きましょう。

<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------

※次のページにも問題があります。



組 番 氏名

1

次の一と二の問いに答えましょう。

一 次の1から3までの文の——線部の漢字の読みを、ひらがなで書いてねいに書きましょう。

1 遠足を欠席する。

2 話し合いを重ねる。

3 めずらしい植物を観察する。

二 次の1から3までの文の——線部のカタカナを、漢字で書いてねいに書きましょう。

1 休み時間にコウテイを走る。

2 調べたことをテチヨウに書く。

3 友人とツゴウを合わせる。

次の一と二の問いに答えましょう。

一 次の文の（ ）の中に当てはまる言葉を、あとのアからオまでのの中から選んで記号で答えましょう。

- 1 駅まで走って行きました。（ ）、電車の時間がせまっていたからです。
- 2 今日はよい天気です。（ ）、とてもあついです。
- 3 何度も説明書を読みました（ ）、使い方もすっかりおぼえました。

ア が    イ それに    ウ し    エ それとも    オ なぜなら

二 次の文の――線部の慣用句の意味を、あとのアからエまでのの中から選んで記号で答えましょう。

- 1 とつぜんの話に自分の耳を疑う。
- 2 鳥のさえずりに耳を傾ける。
- 3 とっておきの情報を耳に入れる。

ア 思いがけないことを聞き、聞きちがいかと思う。  
 イ 同じことを何度も聞かされていやになる。  
 ウ 知らせる。  
 エ 一生懸命に注意して聞こうとする。



3

【話し合いの様子】をを読んで、あとの問いに答えましょう。次の【物語の一部】と

【物語の一部】

- 1 「ヤモ、どうしているかな。」  
パグマンから遠くはなれた町でミラドールは思いました。  
アフガニスタンの小さな村パグマンを出てから、ミラドールは、サーカスの笛ふきとなって、世界中を旅しています。知らない土地の生活にもなれました。
- 2 でも、毎日思いつくのは、なつかしいパグマンの村と、なかよしの友達、ヤモのことです。  
また、次の冬がめぐってきました。  
ラジオではアフガニスタンで長く続いた戦いが終わる、というニュースが流れていました。ミラドールのお父さんは、戦争に行ったりきりゆくえがしれませぬ。
- 3 ミラドールは、小さいときお父さんがよく歌っていた曲を思い出しました。  
「ダラ バ ダラ 谷から谷へパグマンの風を君に送るよ。緑の麦畑をわたり君のかみをなびかせるよ。遠くはなれたぼくの代わりに。」
- 4 今夜もサーカスが始まりました。  
ミラドールが登場すると、テントの中はしんと静かになりました。ミラドールはたくさん曲を、さまざまに旅してきた笛にはひびが入ってきています。  
ミラドールはゆっくりと心をこめてふき始めました。
- 5 「ダラ バ ダラ 山から山へパグマンの風を君に送るよ。金色の畑をぬけてぼくのことを伝えてよ。何もできないぼくの代わりに。」

サーカスが次の町に着いたとき、ミラドールは団長さんに、長い間考えていたことを話しました。

「ぼく、パグマンに帰ります。」

「そうか、そうするか。」

団長さんはうなずいて、だまって海を見つめました。

（文章が続く）

「世界一美しい村へ帰る」小林 豊 より（平成二十七年 東京書籍）

【話し合いの様子】

小川



ぼくは、聞いている人に話の内容がよく伝わるように、音読する前に主人公であるミラドーのこれまでの様子をかんたんに説明したいな。

上村



わたしは、「A」と書いてあるから、ミラドーがサーカスに登場する場面は、小さな声で読みたいな。

小川



それはいいね。ぼくは、ミラドーが「ぼく、パグマンに帰ります。」と言ったところを、ミラドーの気持ちが聞いている人に伝わるように音読したいな。

上村



わたしも同じ。ミラドーの会話文の前に、「ミラドーは団長だんちやうさんに、長い間考えていたことを話しました。」と書いてあるから、ミラドーが村に帰ることを決心した理由を想像そうぞうするのと思うな。

小川



それならばぼくは、「ぼく、パグマンに帰ります。」を小さな声で読みたいな。なぜなら、ミラドーは、パグマンに帰る決心をしたけれども、団長さんにはお世話になったので話しくそうにしていると思うから。

上村



わたしは、「ぼく、パグマンに帰ります。」を大きな声ではっきり読みたいな。なぜなら、

B

小川



それじゃあ、それぞれ考えた読み方で音読してみよう。

一 小川さんは音読する前に、主人公であるミラドールのこれまでの様子をかんたんに説明するこ  
とにしました。ミラドールのこれまでの様子を説明している場面は、【物語の一部】の中の1から  
5までのどの場面ですか。最もふさわしいものを一つ選んで、記号で答えましょう。

二 【話し合いの様子】の A の中に入る言葉として最もふさわしいものを、【物語の一  
部】から二十字以内で書きぬきましよう。(句点「。」をふくむ)

三 【話し合いの様子】の B のところで、上村さんは【物語の一部】の言葉や文を取り上  
げながら、大きな声ではっきり読みたいと考えたわけを話しています。あなたが上村さんならど  
のようなわけを話しますか。次の条件に合わせて書きましよう。

【条件1】  の小川さんのように、【物語の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと。

【条件2】 取り上げた言葉や文をもとに、どうして大きな声ではっきり読みたいと考えるのか  
を書くこと。

【条件3】 書き出しの言葉に続けて、三十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。なお、書  
き出しの言葉は字数にふくむこと。

次は、島田さんが一汁三菜のよさについて書いた【説明の文章の一部】です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

### 【説明の文章の一部】

昔から、日本の食事には「一汁三菜」というこんだてが取り入れられてきた。「一汁三菜」とは、主食のご飯に、汁物と三種類のおかずを組み合わせたものです。組み合わせることで、一度にいろいろな栄養素をとることができます。このことについて、下のわが家の昨夜のこんだてを例にして説明します。

（文章が続く）

平成二十七年全国学力・学習状況調査問題より



一 島田さんは書いた文章を読み、文末を整える必要があることに気が付き、書き直すことにしました。~~~~~線部を他の文末と同じように直して書きましょう。

二 島田さんが、——線部以降に書いた文章として最もふさわしいものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 和食では、伝統的にご飯が左側で、みそ汁は右側に並べます。
- 2 かぼちゃのものには、母の得意料理の一つです。
- 3 主食のご飯からは主に炭水化物をとることができます。
- 4 私は、「いただきます。」と言って感しゃして食べることが大切だと思います。

国語 解答用紙

1
1

2
(ねる)

3

2
1

2

3

2		
3	2	1

2		
3	2	1

3
1

2	
20	10

へここから左には解答を書いてはいけません

学校名	組	出席番号	氏名	/17問中



1

次の一と二の問いに答えましょう。

- 一 次の1から3までの文の——線部の漢字の読みを、ひらがなで書いてねいに書きましょう。
- 1 子孫のために資源を大切にする。
  - 2 勢いよく走り出す。
  - 3 兄弟で、こん虫採集に出かける。

二 次の1から3までの文の——線部のカタカナを、漢字で書いてねいに書きましょう。

- 1 勝利をイワう。
- 2 バスがテイシヤした。
- 3 話し合いの場をモウける。

2

次の一と二の問いに答えましょう。

一 次の1から3までのことわざの意味を、アからエまでの中からそれぞれ一つ選んで、その記号を書きましよう。

- 1 「ぬかにくぎ」
  - 2 「石の上にも三年」
  - 3 「石橋をたたいてわたる」
- ア 上手な人であっても失敗することはあるということ。
- イ 何事にも慎重で、じっくり取り組むこと。
- ウ 何の手ごたえもなく、きき目がないうこと。
- エ がまん強くしんぼうして続けられ、いつかは成こうするということ。

二次の1から3までの文は、下の【文の型】のA・I・ウのどの型に当たりますか。適切なものをそれぞれ一つ選んで、その記号を書きましよう。

1 私は、国語の学習で感想文を書いた。

2 頂上から見える景色は、すばらしい。

3 日本で一番高い山は、富士山だ。

A 「何は(が)」 「何だ」

I 「何は(が)」 「どうした」

U 「何は(が)」 「どんなだ」

3

本田さんの学級では、総合的な学習の時間で、興味をもった「日本の文化」について調べ、四年生に発表することになりました。そこで、本田さんは、和菓子を作るテーマに調べることになりました。【日本の文化について書かれた文章の一部】を読み、あとの問いに答えましよう。

### 【日本の文化について書かれた文章の一部】

一方、和菓子を作る職人がいても、それを食べる人がいなければ、和菓子はいずれなくなってしまうのではないでしようか。ですから、わたしたちが季節の和菓子を味わったり、年中行事にあわせて作ったりすることも、和菓子の文化を支えることだといえるでしよう。和菓子は、和菓子作りに関わる職人だけではなく、それを味わい楽しむ多くの人に支えられることで、現在に受けつがれているのです。

このように、和菓子の世界は、知るほどに深くが深いものです。長い時を経て、それぞれの時代の文化に育まれ、いく世代もの人々の夢や創意が受けつがれてきた和菓子には、おいしさばかりでなく、① 和の文化を再発見させてくれるような魅力があるといえるでしよう。

わたしたちの毎日の生活の中には、和菓子に限らず、筆やろうそく、焼き物やしっ器、和紙、織物など、受けつがれてきた和の文化がたくさんあります。そこにどんな歴史や文化との関わりがあるのか、どんな人がそれを支えているのかを考えることで、わたしたちもまた、日本の文化を受けついでいくことができます。

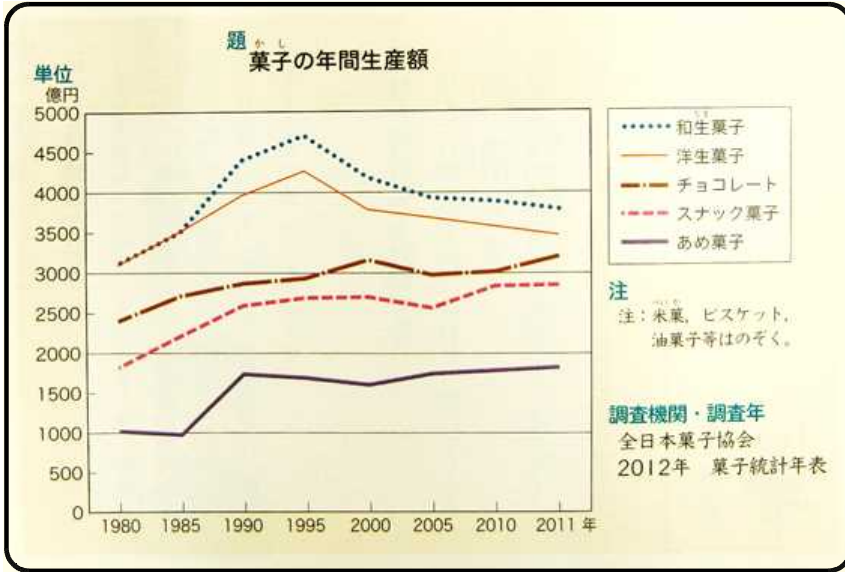
中山 圭子「和の文化を受けつぐー和菓子やさぐる」より(平成二十七年 東京書籍)



- 一 ① に当てはまる言葉を、次のアからエまでのの中から一つ選んで、その記号を書きましよう。
- ア 現代的      イ 発展的      ウ 感動的      エ 伝統的

二 和菓子がどのくらい作られているのかを知りたくなった本田さんは、次の【資料】をもとに、菓子の年間生産額について分かったことをメモに取りました。【メモの一部】のイの書き方のように、アのに入るふさわしい言葉を、書き出しに続けて書きましよう。

【資料】菓子の年間生産額



【メモの一部】

ア わなまがし 和生菓子と ようなまがし 洋生菓子の年間生産額は、  
一九八〇年から

イ わなまがし 和生菓子と ようなまがし 洋生菓子の年間生産額は、  
一九九五年から二〇一一年まで毎年減少している。



## 【緑のカーテン作りへの協力のお願い】

## 緑のカーテン作りへの協力のお願い

6年1組 森・中村・秋山

## 緑のカーテンとは

夏が来ると、教室が暑くなってこまったことはありませんか。わたしたちは、それを解決するために緑のカーテンを作ることになりました。

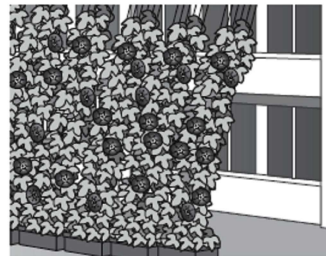
緑のカーテンとは、まどの外に植えたアサガオなどの植物で、日ざしをさえぎるようにしたものです。緑のカーテンを作ると教室をすずしくすることができます。

中には布のカーテンをしめればよいという人もいるかもしれませんが、しかし、緑のカーテンを使うと布のカーテンよりも室内の温度を下げるすることができます。緑のカーテンは、夏をすずしく過ごすためのくふうの一つなのです。

## 緑のカーテンの作り方

わたしたちは、できれば1階から3階までの全教室をおおうように緑のカーテンを作りたいと考えています。そこで、次のように作ろうと思っています。

- 1 大きな植木ばちを用意し、肥料と土を入れて1階に置く。
- 2 1階から3階までネットをはる。
- 3 アサガオの種をまく。
- 4 たくさんの水をやる。
- 5 一番太いつるが1mぐらいになったら先の芽を切る。
- 6 芽が分かれてのびてきたらネットにまきつける。
- 7 7月になったら肥料を追加する。



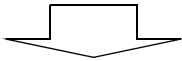
水やりに協力してくれる人をぼ集めます

平成29年度全国学力・学習状況調査問題より

森さんたちは、「緑のカーテン」を作るため、同じ学年の友達に協力してほしいと思い、次の【緑のカーテン作りへの協力のお願い】を書いていきます。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

## 【緑のカーテンを作った人の話から分かったこと】

- ・肥料を入れすぎない。
- ・水やりがとても大変。
- ・毎朝水をやらないとすぐにかれてしまう。
- ・大きな緑のカーテンを作るためには、たくさんの植木ばちに水をやる必要がある。
- ・植木ばちの数はどのくらい大きな緑のカーテンを作るかで変わる。
- ・先の芽を切るのをわすれないようにする。
- ・つるをネットにまきつけるとき、ひもで結んでもよい。



### 水やりに協力してくれる人を ぼ集します

大きな緑のカーテンを作るためには水やりが大切です。しかし、水やりはとても大変です。

なぜなら、

このように水やりはとても大変なので、たくさんの人の協力が必要です。協力してくれる人はわたしたちに声をかけてください。ぜひいっしょに大きな緑のカーテンを完成させ、全校ですずしい夏を過ごしましょう。

### 【条件】

- 【緑のカーテンを作った人の話から分かったこと】から二つ取り上げて書くこと。
- 【緑のカーテン作りへの協力のお願い】にふさわしい表現で書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、三十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

- 1 夏の教室が暑いとどう困るのかの具体例を、最初に書いている。
  - 2 最後に疑問を提示し、読者が興味をもって読めるようにしている。
  - 3 緑のカーテンについて説明した後に、緑のカーテンの作り方を書いている。
  - 4 緑のカーテンの作り方について要約した文章を、最初に書いている。
- 二 森さんたちは、水やりが大変な理由に着目して、【緑のカーテンを作った人の話から分かったこと】の中を書くことにしました。そこで、以前メモしていた【緑のカーテンを作った人の話から分かったこと】を取り入れて書くようにしています。
- に入る内容を次の【条件】に合わせて書きましよう。

国語 解答用紙

1

—  
1

2  
2  
(い)

3  
3

二

1  
(う)

2

3  
(ける)

2

—  
3 2 1

二  
3 2 1

3

—

二

和生菓子と洋生菓子の年間生産額は、一九八〇年から

へここから左には解答を書いてはいけません

学校名				
組				
出席番号				
名前				
/ 17 問 中				

